

事業完了報告書（京都市）

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和 7 年 2 月 2 8 日
調査研究事項	以下のⅠ～Ⅴのいずれであるかを記載した上で、研究テーマを明記する。 Ⅰ. 教育課程、教育環境整備に関すること ② Ⅱ. 広報・相談体制の充実に関すること Ⅲ. 都道府県・市町村間の連携に関すること Ⅳ. その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究のねらい	Ⅱ. 広報・相談体制の充実に関すること 京都市立洛友中学校夜間部（夜間中学）は1970年（昭和45年）前身の京都市立郁文中学校二部学級を引き継ぎ、2007年（平成19年）に学びの多様化学校（不登校特例校）を併設する全国で唯一の学校とした開校した。 郁文中学校二部学級当時は最大97名の生徒が在籍していた。この多くは戦中・戦後の混乱、貧困、差別等により学ぶことができなかった日本国籍生徒、在日韓国・朝鮮人生徒、中国帰国生徒等の未就学生徒であった。 入学生徒の多くはいわゆる「ロコミ」により二部学級の存在を知ることが多く、実際には在籍する生徒が紹介をするという事例が多かった。しかし、2000年頃を境に生徒数は減少に転じた。これは戦中・戦後に教育を受けることができなかった方が高齢になったことによるものが大きい。そして、令和5年度の在籍生徒数は18名でピーク時の5分の1程度にまで減少した。 この数字だけを見ると夜間中学の必要性は薄れているように思われるが、実際には令和2年に行われた国勢調査の結果で、京都市には763人の未就学者、5,314人の最終卒業学校が小学校の者が存在していることが明らかになった。さらに、平成28年度から入学が認められるようになった、中学校の多くを欠席し、十分に学ぶことができないまま卒業した、いわゆる形式卒業者を加えると対象者は郁文中学校時よりもはるかに多いと考えられる。 以上のことから、以下3点について、取り組んだ。 ①対象者へ夜間中学の存在や取組に関する情報が行き渡るようわかりやすく幅広い広報とすること。 ②対象者が夜間中学を知り、入学相談できる機会を増やすこと。 ③夜間中学制度をより知ってもらうための啓発をねらいとして、広報・相談体制の充実に取り組むこと。

調査研究の成果	ポスター・チラシ、募集案内等の配架、掲示、配布をはじめとした広報活動の具体的な成果として、以下のことがあげられる。 ・入学相談、問い合わせ数の増加 令和7年度の入学予定者数はこれまでと比較して増加したとまでは至っていないが、1月末までの入学を踏まえての問い合わせ数については19件に上っている。例年と比較して増加傾向にある。 ・ホームページ閲覧数の増加 これまでの洛友中学校ホームページ1日当たりの閲覧数平均は32.4であったが、令和6年度は45.3になり、約1.4倍増加した。 本調査では、以下活動を実施した。 ・市民しんぶんによる生徒募集 ・京都市の区役所・支所、京都府内の図書館、ハローワーク、地域のコミュニティーセンター等への募集案内、学校紹介ポスター、チラシ、多言語による学校紹介リーフレットなどを制作し配架（92カ所、2985枚） ・ホームページによる学校紹介 ・京都市立小・中・義務教育学校への募集案内、学校紹介ポスター、チラシ、リーフレット等の送付と形式卒業生徒への学校紹介依頼 ・校門前での生徒制作募集案内ポスターの掲示 ・在日韓国・朝鮮人居住地域の行事での学校紹介活動 ・学校周辺地域への学校だより配布 ・小中学校教職員を対象とした学校公開 ・文化祭等の行事公開 ・他中学校生徒等の学校見学受け入れ（人権学習への協力） ・教育機関や自治体等の依頼を受けた視察受け入れと学校紹介の講演 ・近畿および全国の夜間中学との交流による情報収集 ・中学校・小中学校後期課程で行っている生徒募集案内の拡大 ・洛友中学校夜間部の取組（生徒作文、文化祭舞台発表等）を紹介する書籍（絵本）、資料の制作と中学校・小中学校後期課程への配布 ・授業体験を実施し、その際に入学相談の機会を設け、学びたいという希望に適切にこたえ、広く受け入れる体制づくり これらの取組継続し、さらに発展させていくことで広報・相談体制の充実につなげた。その中でも特に以下の2点については今年度の重点課題として取り組んだ。
---------	---

・書籍（絵本）増刷による、夜間中学周知活動の展開。

令和５年度、絵本作家の指導のもと、夜間部生徒が「自分だけの絵本」づくりを行った。これは生徒が自由に学校生活のことや家族のこと、趣味について等のテーマを決め、絵本づくりを通して文を作り、絵を描く力を育てるだけでなく、創造力や伝達力を培うことを目的として行った。また、昼間部生徒との交流の時間に読み聞かせの体験を行ったり、文化祭や区役所のスペース等を利用して、夜間中学を紹介する目的で展示を行ったりした。さらに、絵本作家の協力を受け、夜間中学をテーマにしたオリジナル絵本を制作し市内全中学校に配布した。これは急増する形式卒業者に夜間中学の存在を周知することと、中学校での人権学習の教材に資することをねらったものであった。

令和６年度は、この取組が生徒にとって得るものが多かったという評価を踏まえ、「自分だけの絵本」として継続して取り組んでいく。その成果を広げることで、夜間中学についての周知につなげるため、校内外を問わず様々な機会を利用して、展示する。また、オリジナル絵本を増刷し、配布対象を広げていく。

・授業体験を通した入学相談の充実。

４月入学生徒募集に際して、授業体験期間を設けた。これまで生徒募集は学校見学・説明、面接等により行っていたが、これだけでは入学希望者の中学校生活への具体的な展望を持たせるまでに至っていなかったのではないかという反省を踏まえて変更したもので、授業を体験することで、学びたいという希望をより具体化させ、あわせて入学についての相談活動を行う時間を設けるためのものであった。特に、形式卒業者にとっては実際に授業に参加することや、不安を事前に解消できる意義のある取組となった。

さらに、これまで年度途中に入学希望相談を受けても、受付期間外ということで、十分に対応できなかったことや、進路未定のまま卒業した形式卒業者の４月以降の進路先の選択肢の一つになっていなかったことを踏まえ、４月以降も一定期間入学を受け付けた。

上記２点以外にも、他自治体等の視察を多く受け入れたことが令和６年度の大きな特色としてあげられる。（都道府県・政令市１０都市、市町７都市）

現在、多くの自治体で夜間中学の新設を計画している。洛友中学校は夜間中学の中で、学びの多様化学校を併設する学校として注目されており、不登校対策と合わせて視察を希望されるこ

とが増えている。さらに京都市内においても夜間中学への関心が広がってきており、教育機関、公共施設等からの講演依頼が増えてきている。

これらに取り組んでいくことは夜間中学について詳しく理解を得ることにつながり、あわせて学校説明資料、ポスター、チラシ、リーフレットなどを配布することで、夜間中学の情報が拡散していくことにつながると期待できる。

広報・相談体制の充実に関して、これまで行ってきた取組を継続して実施するだけでなく、取組を再検討したり、効果的と思われる新たな取組を実施したりした。重点としてあげた取組をはじめ、令和6年度実践し、成果を上げたものは以下の通り。

○広報資料の配架、掲示、配布機会の拡大

学校紹介ポスター・チラシ、募集案内を増刷し、京都市内にかぎらず、京都市在勤者にも周知されるよう、広く京都府下の公共機関等へ配架、掲示、配布を行った。

○学校紹介の取組機会の拡大

これまで学校公開、文化祭等の行事の案内、広報活動のための行事への参加などを通じた学校紹介の取組を行ってきたが、案内範囲を拡大し、広く周知されるようにし、特に昨年度より実施している「オリジナル絵本」の制作活動にかかわっては、単に取組や制作物をホームページ、文化祭等の機会に紹介するだけでなく、さらに増刷し、配布対象を区役所、図書館等に広げることで、12月人権月間の展示企画と連携するなど、一般市民の身近な場所で絵本を手にとっていただけるように取組をさらに広げた。また、「オリジナル絵本」の紹介を通じて、学校ホームページなどから洛友中学校全体の取組や概要について紹介できる機会を設けた。

○絵本の制作活動を通じた広報活動

昨年度より、夜間部において、生徒による「自分だけの絵本」づくりを行ったが、今年度はさらに制作期間を長くし活動内容を充実させたほか、昼間部生徒も制作活動を行った。作品は地域の図書館に展示し、夏季休業中に地域の児童等を対象とした読み聞かせを行い、夜間中学の存在や取組等が周知されるよう

努めた。これは夜間部生徒だけでなく、昼間部生徒が絵本制作に取り組むことで、絵本づくりを通して得ることができる自らを表現する力等を育てたり、作品展示や夜間部生徒との交流の中での発表、図書館や児童館等で読み聞かせ体験を行ったりすることで自己有用感を育む副次的効果を得ることができた。

また、絵本づくりを指導していただいている絵本作家が、地域のロータリークラブの支援を受けて、「自分だけの絵本」をテーマにした展示会を地下街のイベント広場で開催される機会があり、本校生徒作品も展示していただく中で、広く夜間中学の存在をPRすることができた。

こうした取組が一般市民へさらに周知されるよう、京都市教育委員会と連携し、地元メディアでの掲載機会を得るなど広報の充実に努めた。

○視察・講演機会の拡大による全国への夜間中学制度の啓発

近年、視察依頼が増加しているが今年度も教育機関を含め約40件程度の視察、講演依頼を受け、夜間中学開校を予定する自治体等に学校紹介などを行った。視察対応は、夜間中学制度の全国の広報活動に大きな役割を果たしていると考えている。視察の際には単なる見学だけでなく、ていねいに制度や夜間中学、あるいは学びの多様化学校併設等についての説明と相談を行い、これから開校準備を進める自治体等への協力を行ってきた。また、今年度はそれだけではなく、他夜間中学校からの視察、大学からの研究を目的とした視察、地域の人権団体などへの講演なども増加し、夜間中学についての周知を広げる機会を拡大させた。

○募集機会の拡大に関わる取組の充実

年度途中に入学希望相談を受けても対応できなかったことや進路未定のまま3月に中学校を卒業した形式卒業者の進路先の選択肢になっていなかったことを踏まえ、これまでの入学に関するしくみを整理、発展させた。それにもなって市立中学校に対し、進路未定の卒業生、卒業後の不調等により進路変更した卒業生等が長期間にわたって引きこもり状態にならないよう、再出発のひとつとして夜間中学の活用を促すための案内をした。

○全国夜間中学校研究大会への参加及び他夜間中学への視察

現在、京都府には夜間中学は洛友中学校 1 校のみが開設されているため、国の夜間中学開設に関する施策、他校の取組状況などの情報を入手することで、教育活動、広報活動の充実を図ってきた。今年度も例年同様、全国夜間中学校研究大会への参加、他県の夜間中学視察により、自校の教育活動、広報活動等の取組の充実を図った。また、他校との交流を深めることで最新の情報共有体制の充実を図った。